持続可能であることがお施主様の満足につながる

私の工務店経営 1295

愛知県長久手市

㈱ウェルネストホーム

芝山さゆり社長

「80年育てられた木を使っているのに、35年で建て替える日本の住宅事情に大きな問題意識を抱いている」と明かすのは、愛知県長久手市に本社を構え、全国で快適・健康な住まいづくりを行っているウェルネストホームの芝山さゆり社長だ。「SDGs」に熱い視線が注がれている昨今、家族の安全と思い出を守り、省エネで長持ちする「持続可能な住宅」こそが、家本来の姿だと考えている。

同社が参考にするドイツでは、何代にも渡り当たり前のように使用されている住宅も少なくない。一方で日本の戸建て住宅は、大多数が35年前後でスクラップ&ビルドされている現実がある。芝山社長は「四季のある日本でも100年もつ家はつくれる」とし、80年育てられた木よりも長く暮らせる家を目指している。

住宅性能の良さを伝えたい

同社は、木を長持ちさせることを徹底的に追求した結果、今では世界トップクラスの性能を誇るまでになった。家の隙間を表すC値が平均0・2㎠／㎡。窓はオリジナルのトリプルガラス樹脂サッシを採用。熱貫流率を表すUA値は0・78W／㎡k。これは日本で最も普及している窓に比べて約6倍もの数値である。

建物の耐震等級3（警察署や消防署と同等レベルの耐震性）に加え、地震に強い地盤であるか微動探査で調査。さらに、採用している「緑の柱」はシロアリや腐れに強く、理論上では100年以上の耐久性があるとされる。

高い気密・断熱性能と調湿性能がもたらす住環境は快適そのもの。家中どこでも大きな温度差がなく、ヒートショック防止に繋がるほか、夏でも冬でもエアコン僅か1台で生活が可能だ。もちろん家計にも大きく影響し、光熱費は一般家庭の3分の1から2分の1程度で済むことから、「30年住めば、他の住まいに勝るコストパフォーマンスを発揮する」と芝山社長。長い目で見たときの住まいの「お値打ち価格」には強い自信を見せる。

百聞は一泊にしかず

住まいの性能をより深く体験してもらうため、同社はモデルハウスに宿泊できる「試住」を行っている。「服は試着、車は試乗があるのに、一番高い住宅で試住がないのはおかしい」という考えが根底にある。

試住体験者からは「雨の日に泊まったが、湿度を感じずぐっすり寝られた」、「肌のかゆみを訴える息子の症状が普段より軽かった」などの喜ぶ声が伝わってくる。家の性能を百回説明するよりも、一晩泊まってもらったほうが、その良さが明確に伝わるという。

住宅に対する価値観が大きく崩れた

芝山社長はもともと音楽の先生をしていた。結婚を機に退職し専業主婦を経て、子供の夢を叶えるために起業。携帯電話販売やウェブ制作事業を展開していた。住宅業界に足を踏み入れたきっかけは、経営者時代に仙台で講師として招かれたセミナーで、同じく講師だった同社の早田宏徳代表の講演を聞いたことによるもの。

その当時、芝山社長は半年前に自宅を建てたばかり。デザイナーズハウスで見栄えのする住宅は、自慢の我が家だった。だが、「家は木と石と紙と土があればできる」と話す早田代表の講演を聞いた時、住宅に対する概念が大きく崩れたという。「確かに木も石も土も紙もある。だけど余計なものもついている」。一気に自分の家に対する満足度が下がった瞬間だった。

その後、早田代表らと理想の住宅普及に向けたコンサルティング会社を平成20年に設立。ドイツを視察することで先進的な住宅を学ぶ一方、全国で講演活動を行い、省エネ住宅の普及に取り組んだ。しかし、講演活動でいくら省エネ住宅の良さを伝えても、工務店がこれまで手掛けたことのない家づくりに新たに挑戦してくれるとは限らなかった。

また当時、顧問先だった工務店は半数以上が東日本の企業。震災による影響を受けたことで同社にも大きなダメージが及んだ。

理想の住まいをつくるための工務店

理想の住まいづくりを広めるため東奔西走する早田代表。だが、一方で疲労の色は濃くなるばかり。そんな状況を鑑みて、芝山社長（当時は広報部長）は早田代表に「自分で工務店をつくるべきだ」と進言した。

工務店を設立することは自分がコンサルティングを行ってきた会社とライバル関係になるため、「裏切りにあたらないか」と早田代表が気をもむ一面もあったという。だが、芝山社長の「家づくりで社会を変えていこう」の一言がきっかけとなり平成24年、コンサルティング先の工務店石川組の石川義和社長と早田代表の2人を代表とする「低燃費住宅」を設立した。

↑昨年2月に完成した鎌倉モデルハウス。冬の間、無暖房で60坪の室内環境を「温度25℃前後／湿度50%前後」でキープし続けた。

代表の言葉を伝えるメッセンジャー

平成28年、早田代表は社長交代を芝山社長に要請。この時点で芝山社長は教育担当の専務を務めていた他、全国のお母さんに向けたセミナーを行っていた。「家づくりはお母さんの想いが強く反映されるもの。そのため、女性であり母親でもある私に早田は託したのだと思います」。それに早田代表のこれまでの苦労を見ていると、断る理由はなかった。要請から1分も待たずに承諾した。

翌年社名をウェルネストホームに変更。ウェルが「良い」、ウェルネスが「健康」、ネストが「巣」。「家づくりは、健康でかつ快適な巣づくりと同じ」という想いが込められている。

芝山社長体制になって6年目の現在も、早田代表の住まいづくりに対する想いは根づいている。芝山社長は自身を早田代表の理念を伝える〝メッセンジャー〟としている。

「私は創業者である早田の考えをわかりやすく伝えることが使命」と話し、早田代表が研究開発に注力できるよう役割分担をしている。その上で自身が広告塔となって先頭に立ち、「世の中こんな家づくりがあるんだよ」と家族が後悔しない未来を守る住まいづくりを伝えていきたいとしている。

将来的には幼稚園、学校、病院、老健施設なども同社の性能でつくりたいと考えている。その他、今では町づくりにも参画し、「住宅のみならず地域全体で未来につながる活動をしてSDGsを推進していきたい」と熱い構想を抱いている。

↑㊤㊦長久手の同社ヘッドオフィス兼モデルハウス。内観は木のぬくもりが感じられるつくりとなっている。

会社概要

株式会社ウェルネストホーム

住所：〒480-1153 愛知県長久手市作田2-1101

TEL: 0120-146-991

https://wellnesthome.jp/